

平成24年度
愛知県臨床検査精度管理調査報告会
病理検査部門

精度管理事業部員 住吉尚之

実務担当者 橋本克訓

実務担当者 樋口美砂

はじめに

- アルシアン青染色

酸性粘液多糖類を検出する組織化学的手法

- 酸性粘液多糖類

1. 上皮性粘液多糖類

ムコイチン硫酸 → 上皮組織

2. 間葉性粘液多糖類

ヒアルロン酸 → 結合組織

コンドロイチン硫酸 → 軟骨基質

ヘパリン → 肥満細胞

参加施設

- 参加施設

平成24年度精度管理調査参加施設 121施設

病理検査部門参加施設 53施設

材 料

- 材 料

10%ホルマリン固定後の手術材料(胃・大腸組織)
4 μ mの厚さに薄切した未染色標本

評価項目と採点基準(1)

- 評価項目

- 1) 印環細胞癌の染色性

- 2) 胃の腸上皮化生の染色性

- 3) 大腸の吸収上皮、杯細胞の染色性

- 採点基準

良: 3点 染まっている

可: 2点 染まりが悪い

不可: 0点 診断に支障がある

評価項目と採点基準(2)

4) 胃および大腸の結合織の染色性

良: 1点 染まっている

不可: 0点 染まっていない

5) アルシアン青の共染および色素粒子析出の有無

良: 1点 共染や汚れがない

不可: 0点 共染または汚れがある

評価項目と採点基準(3)

6) 核染色によるアルシアン青染色への影響度の有無

良:	3点	影響なし
可:	2点	若干影響
不可:	0点	過度に影響

評価点数

病理細胞検査研究班班員19名が各々に評価
スコア化した平均点数の合計

- A評価:12点以上
染色上目的を十分に達している
- B評価:10点以上12点未満
染色上目的を達しているが、更なる向上が望まれる
- C評価:8点以上10点未満
染色上目的を達しておらず、改善の必要がある
- D評価:8点未満
染色上目的を達しておらず、診断に支障をきたす可能性
がある

結果

- A評価 52施設
- B評価 1施設

前回調査(平成15年度)からの動向

A評価を維持 46施設

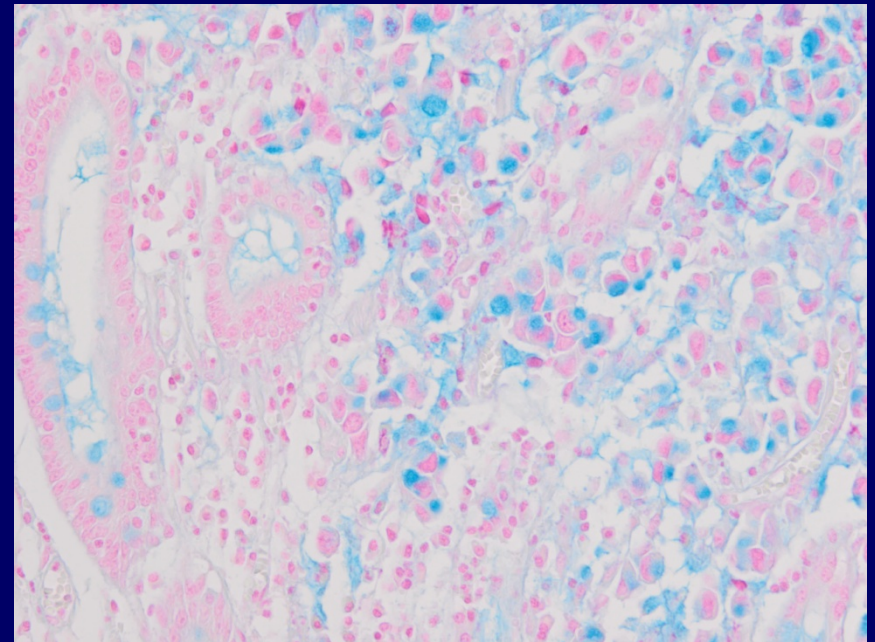
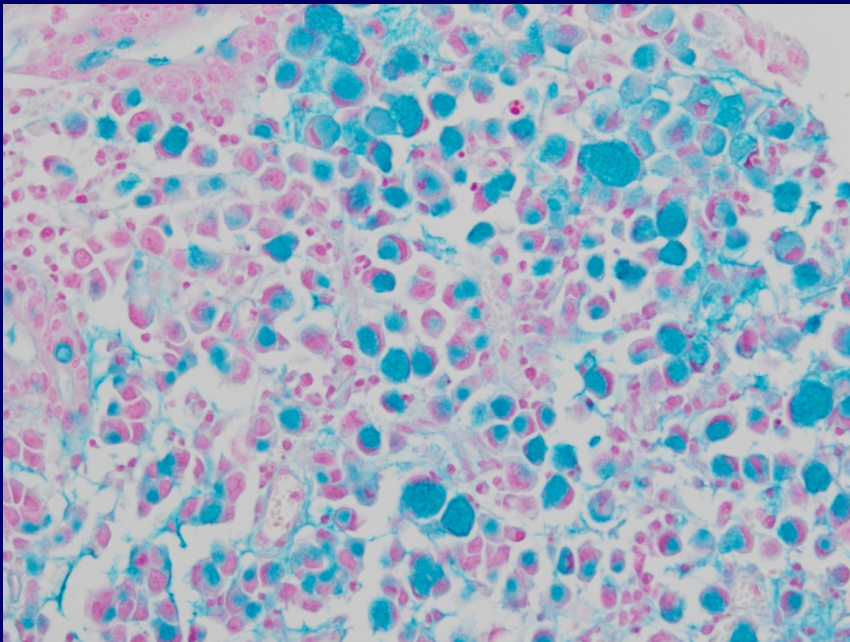
A評価に改善 6施設

A評価→B評価 1施設

胃 印環細胞癌の標本

A 評価

B 評価

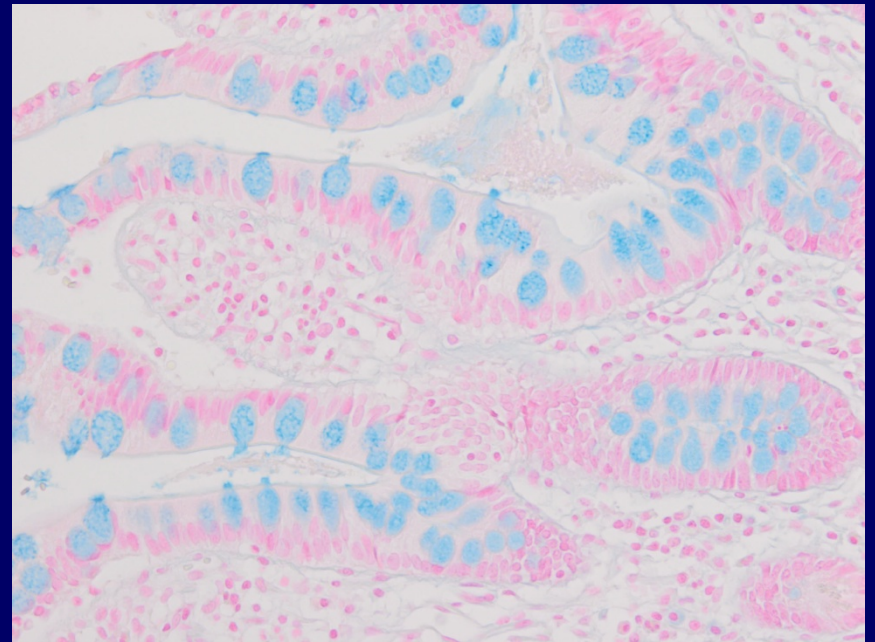
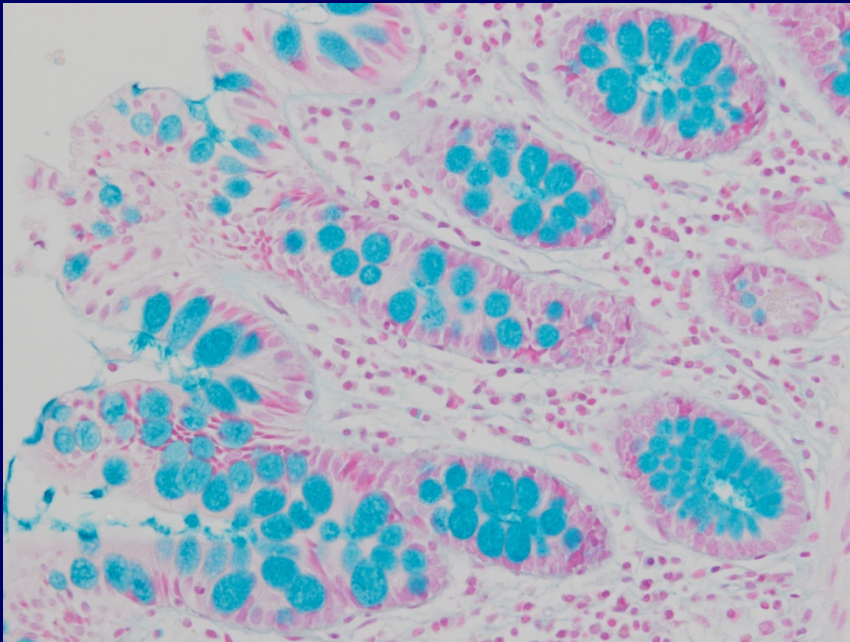


対物20倍

大腸 杯細胞の標本

A 評価

B 評価

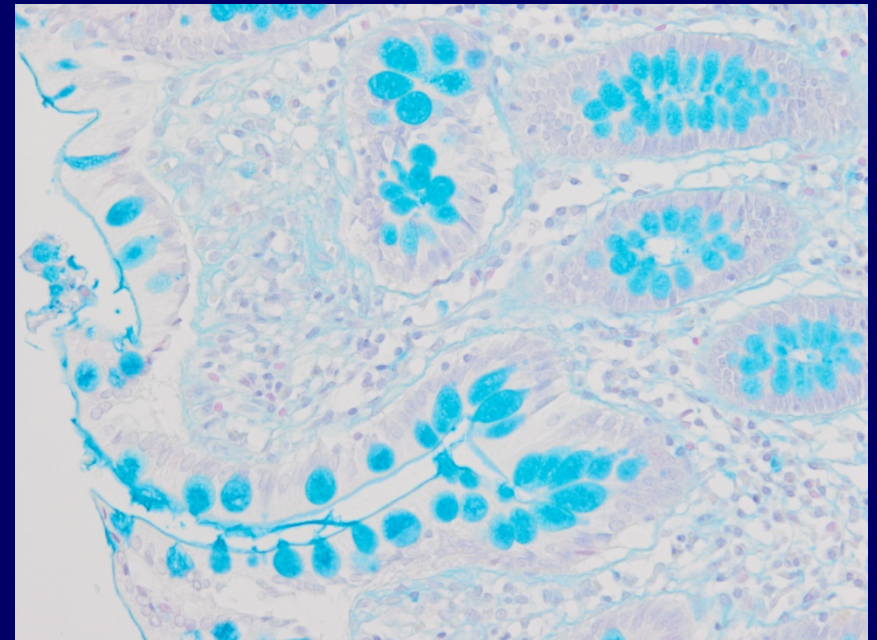
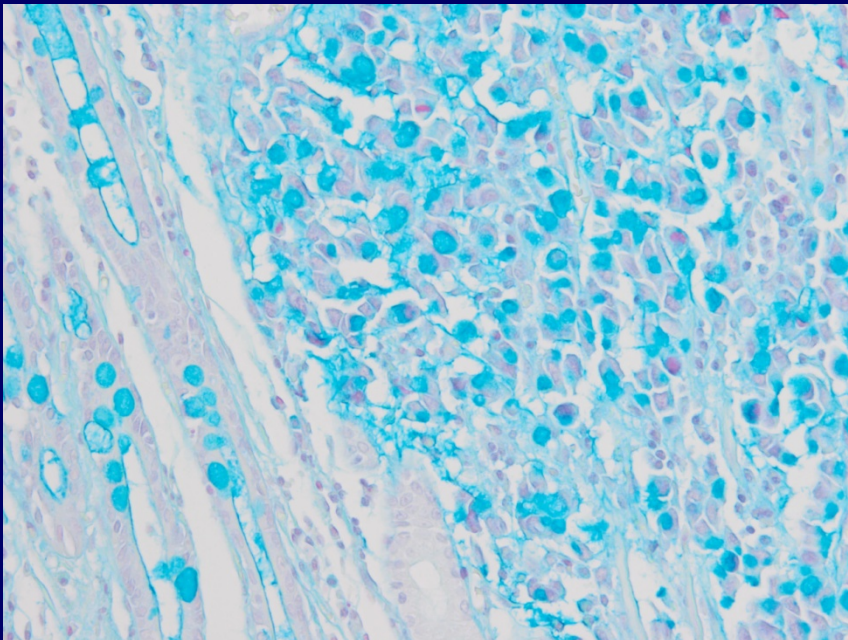


対物20倍

共染が見られた標本

胃

大腸



対物20倍

アンケート調査

設問数 27

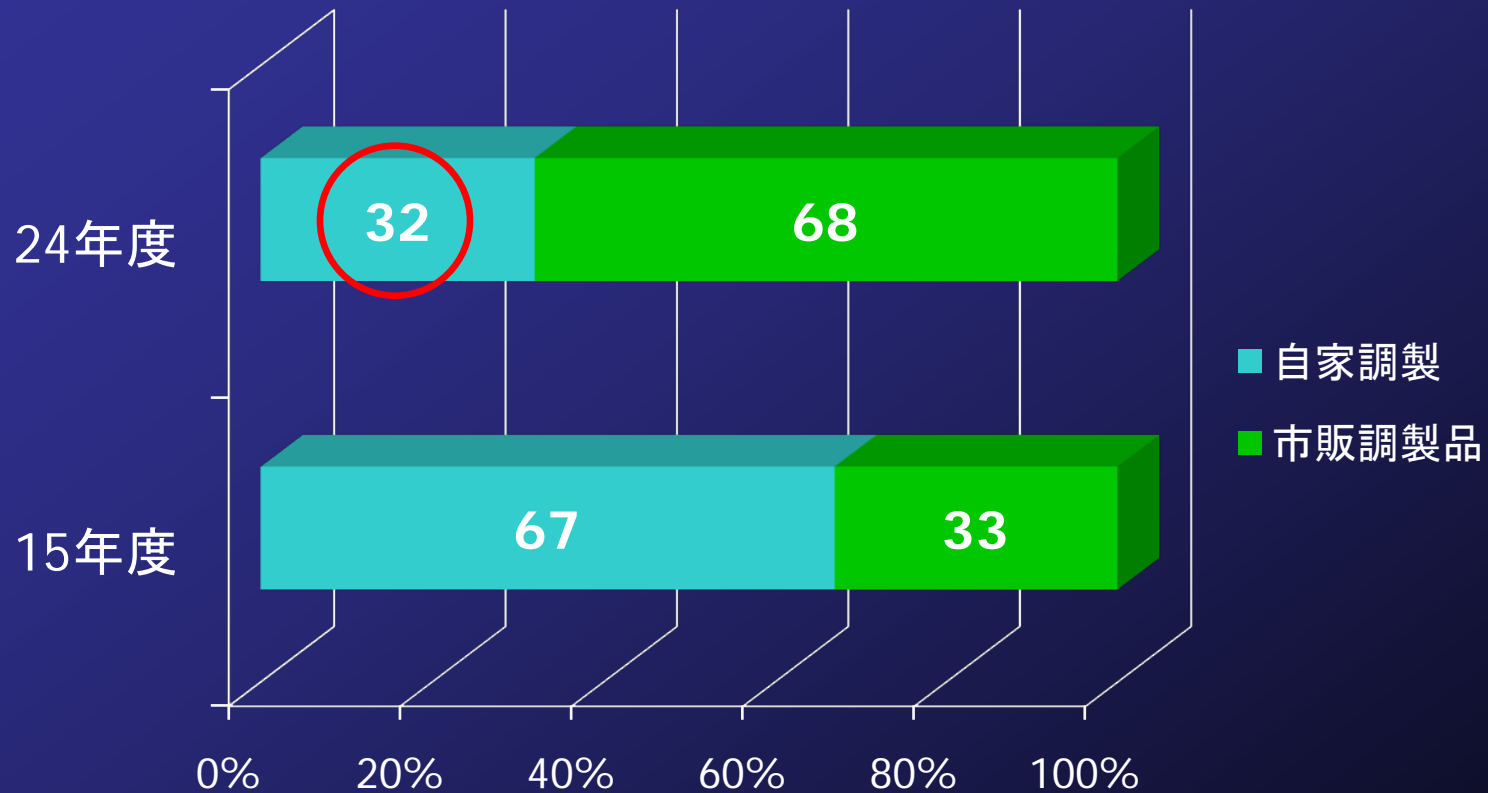
染色工程

- 1) 脱パラフィン、水洗
- 2) 3%酢酸水(前処理)
- 3) アルシアン青染色液
- 4) 3%酢酸水(洗淨)
- 5) 水洗
- 6) 核染色
- 7) 水洗、脱水、透徹、封入

前処理液の使用と評価

酢酸水	A評価	B評価
使用	51	0
不使用	1	1

アルシアン青染色液の自家調製



洗浄液の使用と評価

酢酸水	A評価	B評価
使用	45	0
不使用	7	1

洗淨液の薬液槽数

- 1槽のみ 26施設
- 2槽使用 7施設
- 3槽使用 12施設

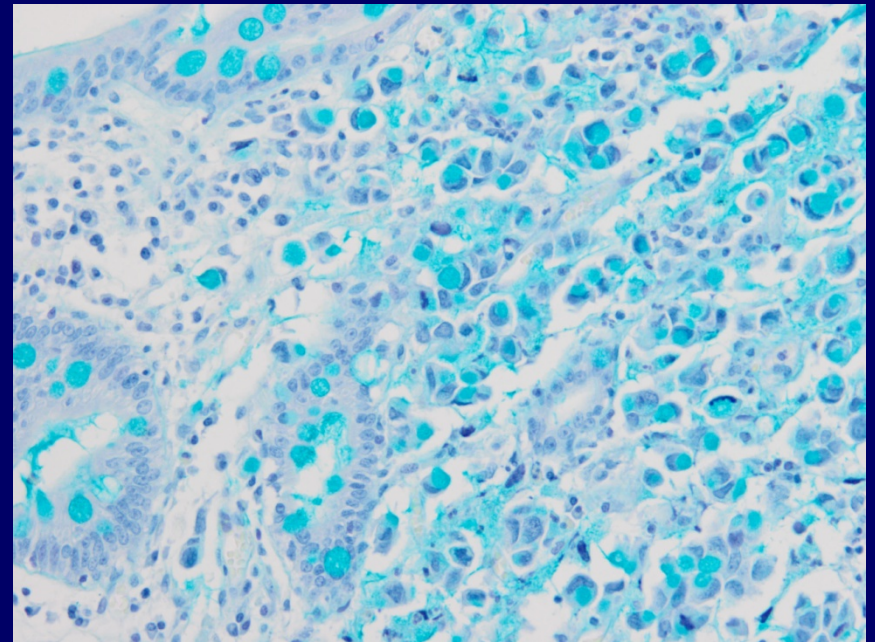
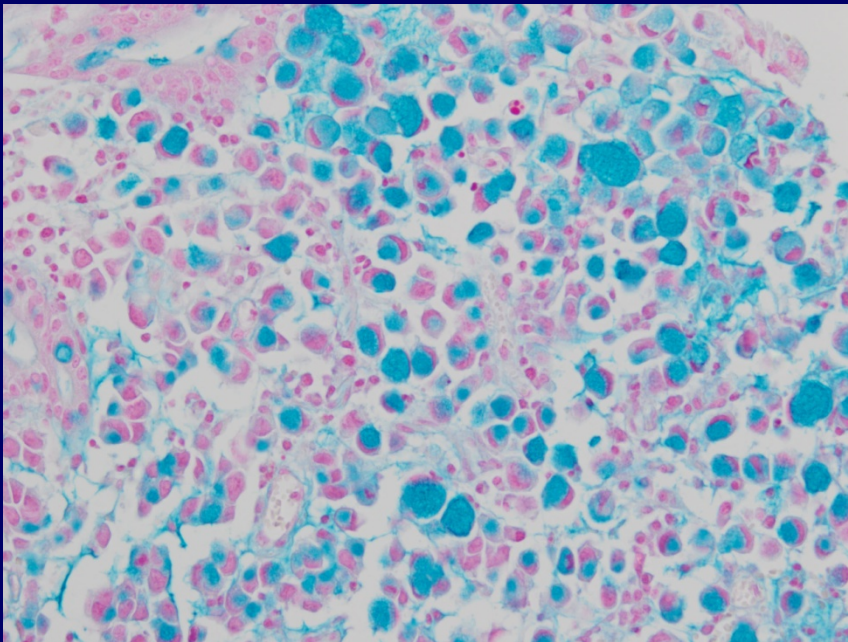
核染色の染色液名

- ケルンエヒトロート 44施設
(NFR NR)
- ヘマトキシリン 9施設

核染色にヘマトキシリンを用いた標本

ケルンエヒトロート

ヘマトキシリン



対物20倍

考察

- A評価の施設数増加は、前回調査後にB評価施設が、改善に取り組んだ結果の表れと考えられる。
- B評価となった施設は、前処理液および洗浄液の操作が行われず、長期間試薬交換が行われていなかった。
- 試薬の保存方法と交換時期は、施設によって違いが見られた。

まとめ

- 試薬の保存方法と交換時期の検討が、今後の課題である。
- 県下の全施設がA評価となるよう、今後の研究班活動において染色方法の周知を図りたい。
- 特殊染色の精度管理を定期的に行うことで、施設間差是正と標準化の一端を担うよう努めたい。

ご清聴ありがとうございました